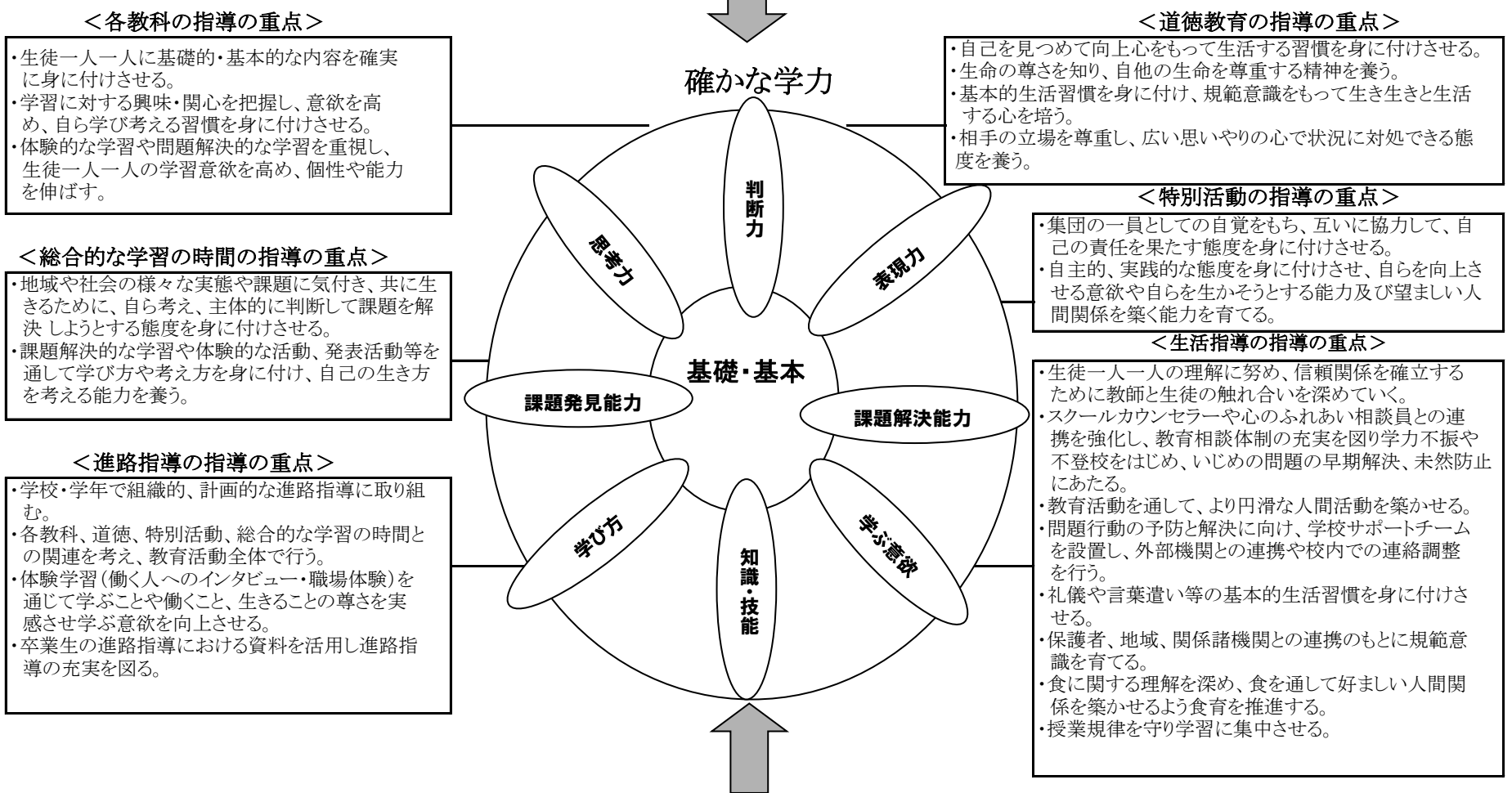
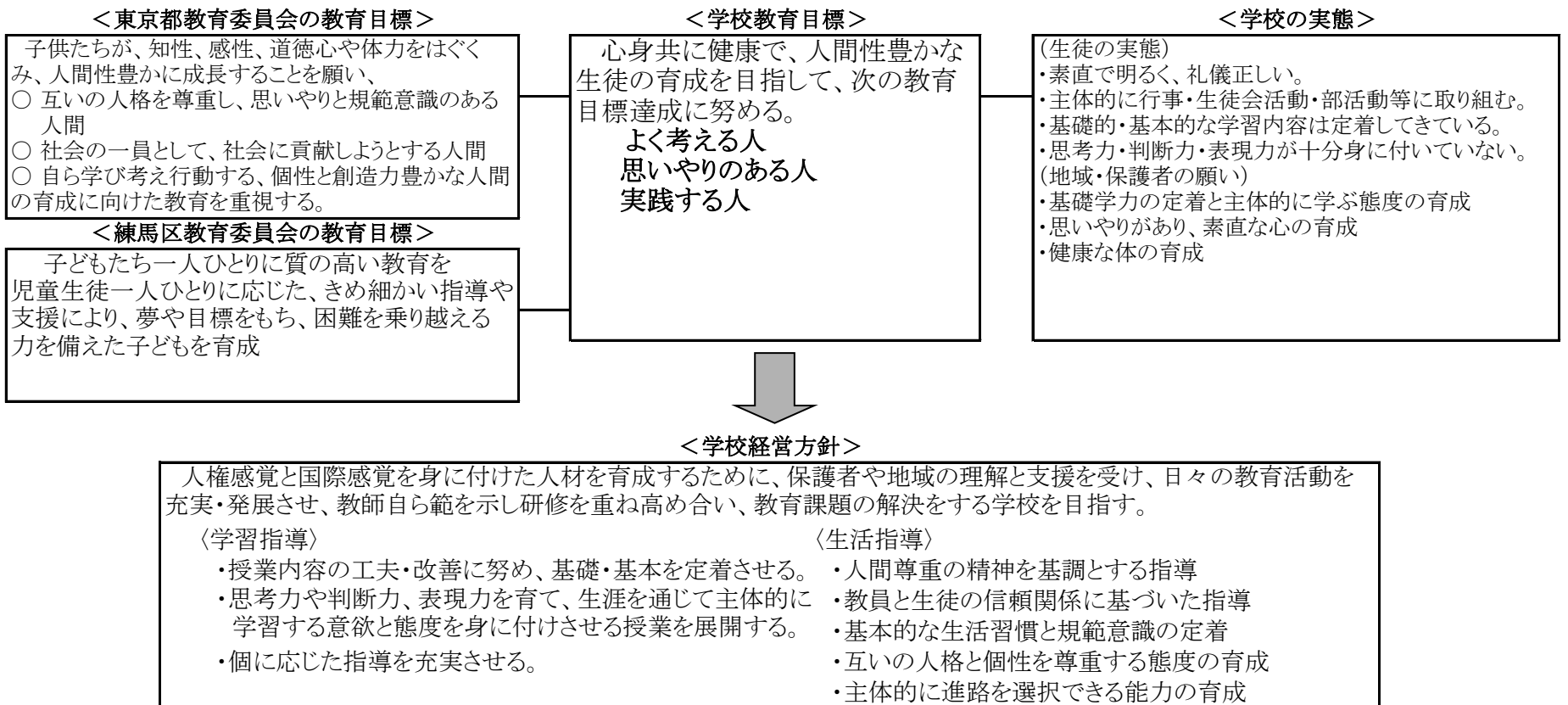


平成27年度 学力向上を図るための全体計画



<本校の授業改善に向けた視点と工夫>				
教育課程編成	校内の研究や研修	評価活動	家庭や地域との連携	小中一貫教育の視点
・個別指導、グループ別指導などの指導 方法の改善。補充教室を実施し基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。 ・生徒の主体的な学校生活への取り組みを重視する。 ・体験的な活動、課題解決的な学習活動を重視する。 ・貫井図書館と連携し学校図書館を活用した読書活動を推進する。 ・数学の習熟度別少人数授業を取り入れ、個に応じた学習を展開する。	・生徒理解を深め、個に応じた指導の充実を図る。 ・各教科での教員相互の授業研究や、研究授業を通して、授業改善を図る。 ・教員の特別支援教育に関する理解を深め、適切な教育的支援を行う。 ・学習指導要領を踏まえた研究や研修の充実を図る。	・評価規準を明確にし、指導と評価の一体化を図り、肯定的な評価の工夫を行うことで生徒の学習意欲を高める。 ・生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に生かす。	・保護者と連携して、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・地域の教育力を取り入れた授業を積極的に実施する。 ・保護者による学校評価アンケートを実施し学校運営や授業改善に生かす。	・連携小学校との連絡協議会を活性化させ、生徒の情報交換を密にする。 ・海外派遣生徒の体験を、連携の小学校で児童に説明をし交流の場とする。 ・小学校での学習内容を踏まえ、中学校の学習内容のオリエンテーションをしながらスムーズに授業を受けられるようにする。 ・職場体験では連携小学校も体験場所の一つとして交流を図る。 ・小学生に部活動見学や校内見学等の機会を作り、連携を深める。